

歯学部生の今

歯学部生の今

歯学科2年 若 林 美 樹

旭町キャンパスでの新しい生活が始まり3ヶ月が経ちました。新しい環境にもようやく慣れてきたように思えます。今回は私が2年生に進級し感じたことを紹介していきます。

まず感じたことと言えば勉学による生活リズムの変化です。1年時は好きな時に好きなことができて、良くも悪くも自分がどの学部にも所属しているのかが分からなくなっていました。先輩方から話は聞いていましたが、2年生になってからは予習と復習に追われる日々を送っています。大学受験勉強に励んでいた高校生時代に戻っているかのように感じます。しかしながら、高校生活と大学生活では私にとって大きく違う点があります。それは、同じ目標を持つ友人がいることです。高校生時代、私は友人が決して多いわけではなかったのので、人に頼ることができず1人で勉強することがほとんどでした。同じ意欲で取り組める仲間がなかなかできなかったのです。なので、大学に入り私が最も嬉しかったことは目標に向かって努力できる仲間が周りにたくさんいることです。2年生になってからより仲間の大切さを深く感じています。ひたむきに頑張れる人が多く、この環境が私にとって居心地が良いのです。また、もうすでにいくつかテストがありましたが、高校生時代のように自分だけでの勉強では乗り越えることはできなかったと思います。質問したり質問されたりすることでより理解を深めることができます

し、互いに問題を解き合って共有することもできます。今後何年間も勉強をし続けなくてはならない私たちですので、今は大丈夫でも1人では躓くことが将来的に何度もあるでしょう。仲間がいることはとても素敵なことであると感じていますし、そのような仲間を私も大切にしていきたいです。

ここまで読まれると2年生は勉強ばかりの楽しくない日々を送っているのだと思われるかもしれませんが、確かに勉強は大変ではありますが楽しいと感じるのも事実です。大学までの勉強は自分の興味のない分野も学習する必要がありましたが、今の勉強は自分の将来につながっていると実感しながら学習ができ、いざ2年生が始まってみると楽しいと感じる講義がたくさんありました。学習すればするほど良い歯科医師になるためには知識が必要なのであると実感させられます。これが学習のモチベーションになっているので、大変ながらも自分なりに一生懸命頑張ろうという気持ちになれるのです。また、仲間との絆が深まったということもあり、運動会や部活動などでの思い出もできています。どんなに勉強が大切だと言っても息抜きは必要だと思います。勉強は勉強、行事は行事、部活は部活だと切り替えられることも上手く生活していくことのコツです。

最後に、今後2年次の大きな山場である前期定期試験があります。勉強はついていだけで一杯一杯なので不安な気持ちもありますが、仲間と共に乗り越えていきたいです。そして、勉学に励みながらも大学生活を楽しみ思い出をたくさん作りたいと思っています。

歯学部生の今

歯学科2年 佐原 蓮

新潟大学に入学してからはや一年が経ちました。五十嵐キャンパスから旭町キャンパスに学びの場を移し日々の生活を送っていますが、その中で私が感じたことを書こうと思います。

1年生時と比較して最も変化を感じるのは、授業についていくことの厳しさです。基本的には1限から4限まで授業が入る生活が続き、授業の内容は専門的で濃く、試験も一夜漬けの勉強では受けることができません。この原稿を執筆中の現在も、これから訪れる試験のことが常に頭の片隅にあります。先輩方は忙しそうだなと去年の私は他人事のように感じていたことが既に懐かしく感じられます。専門課程が始まり歯科医師の道の第一歩を踏み出せた嬉しさを感じると同時に、その厳しさを実感しつつあります。CBT、国試といった将来を意識する単語もたびたび授業の中で耳にします。休日も授業の予習復習に時間を費やす友人は多く、そうしなければ授業についていけません。授業や部活終わりに「これから何するの」ときくと「図書館で勉強する」と返ってくるやり取りは何回繰り返したかわかりません。ですが、歯科医師という職種に直結する授業には学びがいを感じており、勉強に対するモチベーションを維持することができています。実習では実際に人骨を観察して教科書だけではわかりづらい部分の確認や、専門的な器具を使用する実験など、レポート

が大変ではありますが新鮮で新たな発見があります。授業の内容理解に四苦八苦していますが、授業後に友人同士で教えあう姿を見ることも多く、学年の雰囲気はよいものになっているのではないかと思います。授業はほとんど全てが対面であるため、今まで交流が少なかった同期とも毎日顔を合わせるようになりました。グループ学習も増え、共に学んでいく中で新たな一面が見られることも少なくありません。編入生という新しい仲間も加わり、毎日がとても充実したものになっています。

そのような日々を過ごす中で私の息抜きになっているのが部活動の存在です。私は歯学部サッカー部に所属しており、日々の勉強で蓄積したものを体を動かすことで発散できています。夏に全国の歯学部が参加するオールデンタルに向けて日々練習に励んでおり、仲間と同じ方向を向いて努力することは私にとってかけがえのない経験となっています。特に同期には勉強、部活の両面で刺激をもらっています。私が勝手に競争意識を持っているだけなのですが、試験前には同期に負けたくないという思いが生じることもあり、勉強に身を入れることができています。

2年生になってからは時間がいくらあっても足りず、毎日があっという間に過ぎ去っていく感覚があります。2年生を乗り切り、この忙しい日々も思い出にできるように、毎日を楽しみつつ協力し合い、悔いが残らないよう過ごしていきたいと思っています。

多忙な3年生の日常

歯学科3年 藤田 能 亜

月並みな言葉ではありますが、時が過ぎるのはあっという間で、3年生の前期が今まさに終わろうとしています。そのような折、この歯学部ニュースを執筆する機会をいただくことができたため、少しこの3年生を振り返ろうと思います。そして、この歯学部ニュースをご覧になっているということは、少々時間には余裕がある方であると思われるので、この駄文にも目を通していただけると幸いです。

そこでやはり最初に思い浮かんでくるのは解剖実習であります。この解剖実習では普段ではあまり関わりのないメンバーと班を組み、慣れない人体の解剖を週2回も行うため、始まる前から不安と緊張で頭が支配されていました。解剖実習が始まってからはそのような不安感の代わりに疲労感と好奇心が自分の頭を満たしていました。この極限状態のような日々を班員と共に解剖技術の向上と口頭試問に向けた勉強に捧げると、班員との結束が高まり、解剖知識も身に付いてくるため、不思議と楽しくなってくるのです。そして、口頭試問後に班員と行った飲み会は、口頭試問の緊張から解放されたこともあり、どのような飲み会よりも楽しく、自分のなかでは3本の指に入る飲み会であったと認識しています。

3年前期の最大のハイライトが5月下旬から6月上旬の怒涛のテスト期間だと思っています。口頭試問から始まり、口腔組織発生学の実習講義テ

スト、薬理学の中間テスト、どれをとっても学習範囲が広く苦勞したのを覚えています。その上、今年からありがたいことに去年はオンラインだった東北三大戦が対面での復活を果たし、忙しさに拍車をかけました。申し遅れましたが私は弓道部に所属しています。コロナ禍では弓道の個人競技という特性を活かしてオンラインでの大会が成立してしまったため、非常に楽な思いができました。元来私は面倒臭がりな性格のため、楽なことに味をしめてしまい、正直なところ今年もオンラインで良かったのではと思ってしまう始末です。しかし、今回の東北三大戦ではオンライン大会では味わえない他大学の人との飲み会を実施することができました。散々文句を垂れてはきましたが、このような場での新しい人との飲みはいつでも楽しいもので、最大限満喫することが出来ました。

振り返ってみると先輩方からあれだけ一番忙しいと言われていた2年前期のテスト期間よりも3年前期が大変であったと感じられたため、少しだまされた気分です。そう考えると4年、5年と指数関数的に忙しくなるのではと疑い深くなり、不安で夜しか眠れません。しかし、あまり先のことを考えすぎると辛くなってくるだけなので、気楽に今のこのひとときを全力で楽しみ、満喫していきたいと思っています。

最後になりますが、この3年前期は様々な場での新しい出会いが目立ち、非常に充実したものであったと振り返ることが出来ます。新たな出会いというものはどんな時でも私の心を踊らせる人生におけるスパイスのようなものです。

歯学部生の今

歯学科3年 宗 田 菜穂子

6月も終わりを迎え、2024年があっという間に半分を過ぎ去ろうとしています。3年生になって慣れ親しんだ仲間と共に勉強に部活、遊びと日々生活を振り返ることもなく過ごしていたら、夏がもうすぐそこまで来ていました。今回はこれまでの日々を紹介したいと思います。

3年生の前期で一番印象深い科目は何と言っても人体解剖学実習です。実習をする前は、教科書や参考書などの資料で勉強をしていたが、やはりご献体に接しての実習に対して少しの期待とうまくできるだろうかという大きな不安がありました。解剖学実習は生まれて初めてすることばかりでした。最初はピンセットやメスが思い通りに扱えなかったり、神経なのか血管なのかの区別がつかなかったりと時間がかかり戸惑っていました。ですが徐々に慣れてきて、神経や血管の同定や道具の扱いもうまくできるようになりました。実習前は文字やイラストだけの二次元的なものでしか勉強できていなかったの、本に書いている知識は全く実感が伴っていませんでした。実習を行うこ

とにより、この部分は結合が弱く結合組織もあまりないため病気が波及しやすいとか、この場所で病気が生じていたら治しにくいといった本の中の知識と実際のな形で確認することができました。書物の知識がより現実味を帯びたものだの実感し学ぶことができました。だが、教科書通りでないこともありました。個人によってその人の特徴とする所見があり、神経・脈管の走行が教科書と異なったりするなど違いがあることを知れたことも大きな学びでした。まだ、解剖学実習は続きますが、この貴重な体験を感謝の気持ちを忘れずに充実した時間にしよう頑張りたいと思います。

今年は去年に引き続き歯学部運動会が開催されました。去年は競技部門で2位を獲得しましたが今年は競技部門で優勝することが出来ました。さらにパネル部門でも賞をいただくことができました。日頃の授業、実習で勉強を教え合ったり協力したりして取り組むことで去年より一層、仲を深めることができた成果なのかなと感じました。

最後に今後はより臨床的な学習をしていき、大変なことたくさん起きるでしょう。これまで学んできたことをしっかりと身に付け、勉強も運動も何事にも全力投球する同期のみんなと一緒に大学生活を乗り切っていきたいです。



部活の同期と 運動会にて (著者は2列目の左から1番目)

歯学部生の今

歯学科4年 神 林 ゆ い

私が推薦入試で合格し、入学してから3年が経ち、4年目がスタートした。これまでの大学生活は想像以上にあっという間で、新生活への期待と不安を感じていた入学式が昨日のことのようである。特に3年次からは講義の内容が基礎的なものから専門的なものが多くなり、人体解剖学実習や歯冠修復学実習などの実習が始まったことでさらに日々が目まぐるしく過ぎていった。

4年次前期では講義はほとんど専門的なものになり、毎日歯科に関する新たな知識を学べた喜びを感じる反面、知識の量の多さからCBTや国試だけではなく、将来歯科医師としてこれらの知識を上手く活用することができるのか不安や焦りを感じることもある。しかし、これまで学んできた基礎的な知識と今学んでいることがつながるときや、自分のこれまでの積み重ねた知識を統合的に使えるときなども多々あり、楽しみながら学ぶことができている。また、4年次に上がり、班で1つの症例に対して話し合い、病態や原因、治療法などをまとめていく時間が増えた。友人たちと共に症例に向き合うことで、これまでのどの知識を活用するか確認出来たり、自分が友人と比べて知

識不足であることを痛感することがたくさんある。日常生活では決まった友人と話しがちになってしまうが、このような機会があることで普段話すことが少ない友人と関わったり、自身の学習に対するモチベーション向上につなげることができている。

前記のとおり、3年次から実習がカリキュラムの中にいくつか組み込まれている。模型ではあるが、実際に歯を切削する内容もあり、歯学生であることを実感できるようになってきた。4年次前期では全部床義歯実習でいちから人工歯を排列し、1/10mm単位の世界で考え手を動かしている。実習では何度も失敗しやり直すこともあり、落ち込むこともあるが、担当の先生とどこが原因で失敗してしまうか考え、アドバイスをいただくことで上手くできたときは次も頑張ろうと思うことができる。上手くいかないことの方が多い実習だが、友人同士で励まし合い、先生方にご指導も頂きながら、よりよい歯科医師を目指して自身のスキルを向上させていきたい。

6年間の歯学生生活も折り返し地点にきたが、CBTやOSCE、臨床実習、国試などこれからが歯科医師を目指すうえで大切な時期になってくる。大学生として学生生活を楽しむことも忘れず、自身が理想とする歯科医師に少しでも近づけるように日々励んでいきたい。



運動会での1枚（著者は1列目の右から2番目）

歯学部生の今

歯学科4年 和久田 大 介

歯学科4年の和久田大介です。今回歯学部ニュースの原稿を書く機会をいただいたので、今年の歯学科4年生と私の普段の生活について書こうと思います。

まずは4年生の紹介です。4年生は44人おり、男子の方が若干多めですが男女比はだいたい五分五分です。クラスの仲が良く、楽しく学校生活を送っています。私は違う大学を卒業し、サラリーマン生活を経て2年次編入しました。そんな私の過去の大学時代と、新潟大学歯学部や同級生を比較して思うことが3点あります。1点目は、同級生は皆真面目で熱心であることです。3年生の後期からレポート、実習の製作物などの提出期限に追われることがとても多くなりましたが、部活やバイトなどで忙しいながらも皆真面目にこれらに取り組んでいます。入学当初は、一回り年上である自分がリードしていこうと意気込んでいましたが、むしろ助けてもらうことの方が多く、しっかり者の同級生に敬服するばかりです。2点目は、クラスの仲がとても良いことです。1学年1クラスで同じ授業を毎日受けていることもありますが、連帯感が強く、この学年に入れてもらえて良かったなと感じています。先日には歯学部運動会がありましたが、綱引きメンバーに選出された男子は、食トレによる増量とほぼ毎日ジムで筋トレ

を行い、更には綱引き必勝マニュアルまで作成して毎日盛り上がっていました（残念ながら準優勝でしたので、来年はさらに増やして10キロ増量計画です。）。57期の皆で助け合いながらポリクリ、CBT、臨床実習、国試などを乗り越えていきたいと思います。3点目は、医療系大学の学校生活はとても忙しいことです。年齢的に体力が落ちていることを差し引いても、新潟大学歯学部での学生生活は、以前の大学生活の何倍も大変であると感じます。ハードな日々には四苦八苦しながらも、学びの多い毎日に充実感を感じるとともに、熱心に指導していただける環境と先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。

ところで、私は同級生からパパと呼ばれています。それは、私には3歳の息子がいるからです。そのため、学校にいる時間以外も勉強、家事、育児に忙しい日々を過ごしています。ありがたいことに、最近は休日に同級生が息子と遊んでくれることがあります。体力不足の私とは違って元気いっぱい遊んでくれるので、遊んでもらえた日の息子の機嫌はすこぶる良く、いつもとても助かっています。

この原稿を書いている本日は、成長発育学のテストがありました。テスト勉強では、息子の小さかった頃を思い出したり、成長とともに喪失してしまう原始反射が実際に喪失しているかを息子で確認してみたりして、息子の成長を改めて感じました。成長著しい息子に負けたくないよう、私も成長して立派な歯科医師になりたいと思います。

歯学部生の今

歯学科5年 竹内 蒼

5年生になって早くも3か月が経ちました。そろそろ4年生と名乗り間違えることも少なくなり、緑衣にも慣れてきたところです。CBT、OSCEが約1か月後に迫った今、この原稿を書いているわけなのですが、焦りと不安を抱える毎日から一歩引いて自分を見つめ直す良い機会になっているのかなと思います。

今まで1～4年生でやってきたインプット主体の授業に変わって、5年生では、今まで学んできた知識をポリクリや総合模型実習など実践していくアウトプット主体の授業になりました。ポリクリでは、学生同士ではありますが実際に口腔内へ注射を打ったり、器具を用いて処置をしたりしました。模型では味わえない難しさや緊張感があり、とても良い経験になっています。総合模型実習では、一口腔単位の治療計画を立て、それに沿って治療を進めていきます。今まで点と点だった知識をつなげて治療の流れを考えていくことが、これほどまでに頭を使う難しいことなのだと知りました。これらの実習をしていく中で、自分自身の成長が実感でき、とても楽しく思います。それと同時に、一歩ずつ着実に臨床実習が近づい

てくることを感じ、秋から患者さんを前にすることへの緊張が募っていくばかりです。まだ今後も実習は続いていくので、積極的に取り組み、たくさんのことを学んでいきたいです。

ここからは、学生生活を通して大切だなと思ったことを話していきたいと思います。私がこの4年とちょっとの期間で大切だなと思ったこと、それは「自分の機嫌は自分でとる」ということです。コロナ禍の影響で理想の大学生活とのギャップに打ちひしがれた1年生。勉強量の多さに危うく留年しそうだった2年生。実習の難しさに嘆いた3・4年生。様々な辛いことがあった今までの学生生活ですが、誰かが助けてくれるわけでもないし、現実逃避をしても何も変わりません。そんな日々をうまく過ごすコツは、自分の機嫌をとることだと思います。私にとってそれは部活に打ち込むことや美味しいごはんを食べることでしたが、人それぞれ違うでしょう。ただ心身が健康であれば、大抵のことは大丈夫です。このような点で、勉強だけでなく自分自身の理解も深まった、良い4年間だったと思います。

最初に述べたように、すぐ先にCBTとOSCEが待ち構えています。これらを含め、今後も楽しいことばかりではないでしょうが、可能な限りを尽くして邁進していきたいと思います。



友人と（筆者は中央）

歯学部生の今

歯学科5年 宮田 優奈

5年生も半分が終わろうとしており、月日の流れの早さを実感しています。大学生活が始まった当初はコロナ禍でほぼ全ての科目がオンライン授業でしたが、現在は全て対面授業となり運動会などのイベントも開催され始め、コロナ前の状態に戻りつつあると感じ嬉しく思います。

私が5年生になって感じたことは受け身の授業が少なくなり、調べ学習など今まで以上に主体的に勉強に取り組む機会が多くなったことです。PBLや他の科目でもグループワークが多く、人と協力しながら一つのプロダクトを作成しています。他の人の意見を聞くことで、自分にはなかった視点での考え方を知ることができ、毎回良い刺激をもらいながら理解を深めることができています。また、今までの知識を統合して考えることも多くなりました。4年生まではそれぞれの疾患の治療を学び、それについての実習を行っていました。現在行っている総合模型実習では、模型を使って一口腔単位での治療方法や手順を考えていきます。う蝕や抜歯、補綴治療などをしていかなければいけない中、治療の優先順位を考える作業がとても難しく感じました。先生によっても様々な考え方があり、根拠があれば間違いではなく、答えが一つではないところがとても興味深い部分だと思いました。

他にも週2日でポリクリがあり、6、7人のグループでそれぞれの診療科をまわっています。新しい知識を学んだり、今までの学んできたことを臨床に活かしていけるように実践に近い形で実習を行ったりしています。大学病院にある最新の医

療機器に触れる機会もあり、貴重な経験ができてこの環境に感謝しています。少しずつ臨床の現場でのことを経験させてもらえているという喜びを感じる一方で、人に対して医療行為を行うという怖さも感じています。今までは模型を相手に実習をしていたため、正直なところ目の前の課題をこなすことに必死でした。しかし、相手が人であれば感情があり、不快感や痛みなどを感じます。ポリクリを通して人に医療を提供するという責任の重さを改めて認識しました。

7月末にあるCBTとOSCEを乗り越えると、後期からは実際の患者さんの治療を担当する臨床実習が始まります。今はCBTやOSCEの勉強で一杯一杯になっていますが、歯科医師となる自覚を持つだけではなく、どんな歯科医師になりたいのか残りの大学生活を通して自分と向き合い、将来についても考えていきたいです。



ポリクリ 義歯科の相互実習（著者は術者側）

歯学部生の今

歯学科6年 高井 勇典

この度は歯学部ニュースの執筆という貴重な機会をいただきましたので、これまでの臨床実習を振り返っていこうと思います。

歯学科6年となり今までの講義を受けていた大学生活から一変し、臨床実習という大きく変化した環境の中に身を置いて約半年が過ぎました。日々の臨床実習に協力していただいている患者さん、先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。実際私たち学生が行う診療というのは歯科医師免許のある先生方と比べると長い診療時間がかかります。一回の診療、約3時間という長丁場の中で協力くださる患者さんへの感謝の気持ちを忘れず残りの実習期間を全うしたいと思います。その中で学ぶべきものを余さず学び、知識と技術の向上に役立てていきます。

ここからは私の臨床実習のエピソードを記していこうと思います。臨床実習自体は5年の10月から始まりまして、当時の6年生から担当の患者さんを引き継ぎ、臨床実習がスタートしました。引き継ぎの際は緊張の中、頼もしい先輩の実習を見学し、外来の機材の場所やユニットの操作の仕方など覚えることもたくさんあり毎日が新しい事の連続でした。そんな中引き継いだ患者さんの治療の継続とは別に新患を担当する機会が巡ってきました。当然新しく来た患者さんなので治療計画を一から考えないといけません。講義や実習など、モデルケースで考えたことはありましたが、実際の患者さんの口腔内では初めてです。私はこの時は初めて一口腔内全体の治療計画を立案する大切

さを実感しました。講義では何度も一口腔内全体で考える大切さを教えられていて分かっていたはずでしたが、この経験は今までのどの教えよりも大きな衝撃でした。治療の順番、治療内容、その根拠、他の治療の選択肢の検討など真剣に考えた事により、治療の流れが頭の中で鮮明になった気がします。この得難き貴重な経験をすることができたこの環境にもう一度感謝申し上げます。

臨床実習では同期の助けも多く借りてきました。臨床実習の中で忙しく辛い時期もありましたが乗り越えられたのは周りで頑張っている同期の姿を見たからです。残りの実習も少なくなってきましたが、55期のみんなで最後まで気を抜かずに実習を終え、次の代に引き継いでいきたいと思います。



臨床実習風景

歯学部生の今

歯学科6年 村上 令奈

気がつけば、月日が流れるのは早いもので6年生になっていました。6年生といえばやはり臨床実習なので、まずは臨床実習について書かせていただきたいと思います。

5年生の10月に臨床実習が始まり、初めて4階の技工室の存在を知りました。この1年間ここではほとんどの時間を過ごしました。技工室の席は決まっていて、番号順ではなくランダムだったので新鮮でした。今まであまり関わることのなかった同期とも近くの席になり多くの時間を共有し、とても仲良くなりました。

臨床実習では、実際に自分が担当させていただく患者さんの診療を主に行いました。患者さんは優しい方ばかりで長い診療にも文句ひとつ言わず付き合ってください、多くのことを学ばせていただきました。

臨床実習を通して、私が改めて感じたことは、自分のおかれている環境は恵まれているということです。多くの先生方にご指導いただける環境、患者さんにご協力いただいて臨床実習ができていくこと、一緒に努力することができる友達が近くにいること、どんな時も味方の家族がいること、全ての関わった方々・環境に感謝しています。こ

の場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、「歯学部生の今」ということなので、少し臨床実習以外のことについても書かせていただきます。私は、飲食店でアルバイトをしています。そこは幅広い年齢層の方がいらっしゃったり、働いたりしているので、人間関係を学んだり、気分転換になったりします。さらに、部活動はサッカー部に入っていて、マネージャーをしています。つい先日福島県で行われた北医体にも参加してきました。デンタルでは、昨年度第4位の成績をおさめ、また今年度のデンタルは徳島県で行われる予定で、とても楽しみにしています。

このように毎日楽しく忙しく充実した日々を送っております。

現在、多くの科で医局説明会が行われており、国家試験、卒業が近づいているということを実感しております。卒後の進路についてまだ決まっておらず、不安も残りますが、臨床実習も残すところ3ヶ月となりました。6年間一緒に学んできた同期が全国に散り散りになることは少し寂しいですが、逆に言えば全国どこに行っても仲間がいると思うと心強いなと感じます。どんなときも支えてくれる多くの人への感謝の気持ちを忘れずに、最後まで気を抜かずにみんなで協力して臨床実習に取り組んでいきたいです。



サッカー部北医体 筆者は最前列左から2番目

歯学部生の今

口腔生命福祉学科 2 年 中 川 珠 優

2 年生に進級してもう 3 か月が経ってしまいました。去年は週に 1 回だけ通っていた旭町キャンパスも毎日通うようになり、だんだんと慣れてきたと思います。1 年生のころは教養科目の授業をゆるゆると受けていましたが、2 年生になって歯科の専門科目が始まりました。とても大変に感じるが増えてきましたが、毎日新しい知識が増え、自分が口腔生命福祉学科の学生であるという自覚ができました。

これまで授業を受けてきて一番印象に残ったのは、早期臨床実習での施設見学です。児童相談所と新潟医療センターと 1 歳半検診に行きました。実際に見学することで職場の緊張感や働くうえで大事なことなどを知ることができて、将来自分が働くイメージがわきました。ばんだい桜園には行きませんでした。3 年生で行くときにたくさん学びたいです。ほかにも、歯科衛生士や社会福祉士として働いている方のお話を聞く講義では、歯科衛生士や社会福祉士の中でもさまざまな職場や仕事内容があることを知りました。前半の授業で

多くの部分を占めていたのが PBL でした。PBL はグループでシナリオから事実をあげ、疑問点や仮説を立て、それぞれで調べてきたものをグループで共有して、理解を深める学習方法です。自分だけでは気づかないことがたくさんあったり、調べたことを共有するので、記憶に残りやすかったりと、PBL を行うことのメリットをたくさん感じています。実際に歯科衛生士や社会福祉士として働いている方の話を聞いたときに、コミュニケーション能力の重要性を実感しました。これから働くために必要なコミュニケーション能力を十分に身に付けるため PBL を頑張っていきたいです。ほかにも、ワックス棒から歯の形を彫刻する授業があったり、人体解剖実習の見学を行ったりとたくさんの貴重な経験をすることができました。学んだことを活かせるようにしたいです。

これから夏休みを過ごし、テストがあります。何事もなくテストを終えられるように準備をしていきたいです。テストが終わると実習が始まります。今まで以上に詳しい知識や技術を身に付ける必要があるのも、より一層努力をして学んでいきたいと思います。やりたいことをやって充実した大学生活を送りたいです。



歯の彫刻

歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 上田 実 怜

3年生に進級してから、早くも3か月が過ぎました。暑い日が続く、外に出ることが億劫になる季節ですが、日々学習や部活動に励んでいます。

3年生になり、大きく変化したことが2つあります。1つ目は、福祉分野の学習が増えたことです。2年生の間は歯科分野の学習が大半を占め、福祉分野の学習と言えば福祉施設への見学実習でした。4月からは福祉分野の講義に加え、PBL方式の授業が始まりました。PBLでは、グループ学習と自主学習を交互に行い、社会福祉士になるための知識を深めます。自主学習をする際には、日本の社会福祉制度に関する法改正や今後の福祉のあり方など、幅広く調べて学びを深めます。なぜその法改正が行われたのかを調べるうちに、残虐な事件があったり、福祉制度の不十分さが露見したりする事実に関心をもち、心を痛めることが多くあります。現行法では解決できないことがあると、もどかしさを感じます。同時に、自主学習では調べきれなかったことを同じグループのメンバーが

補完しているなど、共に学びを深めることができるPBLの学習はとても有意義です。

2つ目は、新型コロナウイルス感染症による規制がさらに緩和されたことです。昨年からは全日本歯科学学生総合体育大会が開催されました。さらに、私が入学してから開催されることがなかった北日本大会が5月に開催されました。私は歯学部バスケットボール部に所属しており、入部してからどちらも開催されるのを心待ちにしていた大会だったので、参加できたことをうれしく思います。同時に、新型コロナウイルス感染症によって失われていた当たり前の日常が戻ってきたことに喜びを感じています。今年の全日本歯科学学生総合体育大会は大阪大学歯学部が主幹となり、8月に開催される予定です。昨年は悔しい思いをすることが多かったため、今年は一勝でも多くできるよう、日々練習に取り組んでいます。

夏休みが明け、テストを乗り越えるといよいよ大学病院での臨床実習が始まります。実際に患者さんを目の前にするのはとても緊張します。2年生から講義で培ってきた知識と相互実習で得た技術を総動員し、精一杯実習に励みたいです。



今年度行われた北日本大会での写真 著者は写真2列目左から1番目

歯学部生の今

口腔生命福祉学科4年 小平 幸乃

これまで先輩方の姿に憧れながら過ごしていましたが、ついに最終学年となり、本当にあっという間の大学生活であったと感じます。

4年生になって大きく変わったのは、病院での臨床実習が始まったことです。実際に外来に出て、器具の準備や治療の見学、アシストをさせていただき、実際の現場での業務を感じることができ、より歯科衛生士として働くことを意識するようになりました。実習が始まってすでに3ヶ月が過ぎようとしていますが、実際に患者さんに関わるのはやはり緊張します。病院実習では緊張感もありますが、学びも沢山あります。これまでの講義で治療の流れと使用器材について勉強しましたが、種類が多くなかなか覚えられませんでした。しかし、外来で実際の治療を見ると、器具の使用法が理解でき、それぞれの処置に必要な器具や材料が分かるようになってきました。また、先生や衛生士さんの動作を間近で見ることができ、技術を学ぶ貴重な機会であると感じています。最近はお口の健康室で実習を行い、患者さんにスクレーピング、歯面研磨をさせていただきました。アシストの際に、先生や衛生士さんの処置を見ているため、動作のイメージはできていましたが、実際にやってみると難しく、自分の未熟さに落胆する場面もありました。先生からいただいたアドバイスをもとに経験を重ね、日々学んだことを身につけ、自分でも成長したと感じられるよう実習に励

みたいと思います。

そしてもうひとつ、5月に1ヶ月間の福祉実習という貴重な経験もさせていただきました。私の実習先は精神や知的に障がいのある方が生活されている施設でした。これまで障がいのある方と関わる機会が少なく、はじめは接し方に戸惑っていましたが、しかし、施設の利用者さんは明るく優しい方ばかりで沢山話しかけてくださり、初めの不安が嘘のように、とても楽しく充実した実習となりました。福祉実習で学んだ技術で1番身についたと感じるのは傾聴力です。まずはその方のお話を受け入れ、共感することで、相手の心を満たすことができ、信頼関係の構築に繋がります。傾聴することで相手を理解し、その方に最適な支援を提供できると学びました。

福祉実習で学んだことは、病院実習でも生かせると感じます。例えば病院にも障害のある方や高齢の方も多く来院されます。患者さんのお話をよく聞き、歯科治療にあたって必要な支援は何かを考え、声掛けや環境整備など、その方の特性に合わせた配慮を考えて行動できるようにしたいと思います。

4年生になって実習が増え、これまで以上に濃い経験ができており、大変な場面もありますが、友達と助け合いながら非常に楽しく充実した学生生活を送っています。大学でできた友達は、一緒に目標に向かって高め合える、大切な人たちです。私を沢山支えてくれる友達に感謝し、残りの学生生活もクラスのみんなと協力して、みんなが夢を叶えられるよう頑張っていきたいと思っています。